

2020年3月期 決算説明資料

2020年6月19日



エムケー精工株式会社

証券コード: 5906



2020年3月期の決算概要

2020年3月期の総括

■ 業績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、相次ぐ自然災害の影響により個人消費を中心に経済活動が一時的に押し下げられる局面もありましたが、総じて雇用環境や所得環境の改善が続き、穏やかな回復基調で推移いたしました。一方、海外では、米中貿易摩擦の長期化や英国のEU離脱などによる世界経済の不確実性等が与える影響や、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が与える影響もあり、年度後半から景気の先行きは一層不透明な状況で推移しました。

当社グループが関連する業界におきましては、オート機器の分野では、引き続き設備投資が堅調に推移し、情報機器の分野では、事業部門の統合による成果が出てまいりました。生活機器の分野では市場の伸び悩みや、競合との激しい価格競争を余儀なくされ、厳しい経営環境が続いております。一方、住設機器の分野では、官公庁の庁舎建替需要が好調に推移し、業界全体に活況を呈しております。

こうした状況のもと当社グループは、今年度を初年度とする中期経営計画をスタートさせました。「美・食・住」を軸として事業本部を再編し、全国ネットワーク網及びグループ各社の全体最適化を図るとともに、シナジー効果の創出に取り組んでまいりました。また、「お客様に寄り添うメーカー」から「お客様にとって、なくてはならないメーカー」を目指した商品開発、モノづくりとサービスの融合による顧客価値を追求し、目標達成に向けた諸施策を推進しております。

なお、当連結会計年度に発生した令和元年東日本台風による被害については、当社グループの業績に大きな影響を及ぼしておりません。

この結果、当連結会計年度の売上高は243億8千5百万円(前期比4.2%増)、経常利益は10億6千万円(前期比9.4%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は4億3千7百万円(前期比42.8%減)となりました。

2020年3月期の業績

<連結業績>

単位: 百万円

	2020年3月期	2019年3月期	対前期比
売上高	24,385	23,396	988
営業利益	1,011	1,079	△67
経常利益	1,060	1,170	△109
親会社株主に帰属する 当期純利益	437	763	△326

<単体業績>

単位: 百万円

	2020年3月期	2019年3月期	対前期比
売上高	19,124	18,603	520
営業利益	625	734	△108
経常利益	801	910	△109
当期純利益	421	583	△162

2020年3月期 連結貸借対照表

単位:千円

	2020年3月期	2019年3月期	増減額
(資産の部)			
流動資産	13,513,828	13,145,294	368,533
現金及び預金	3,068,969	2,997,652	71,316
受取手形及び売掛金	5,041,525	5,052,107	△10,581
たな卸資産	5,056,327	4,931,217	125,110
その他の流動資産	347,006	164,318	182,688
固定資産	11,167,029	11,644,571	△477,542
有形固定資産	6,872,647	6,963,814	△91,167
無形固定資産	2,137,591	2,073,053	64,538
投資その他の資産	2,156,790	2,607,702	△450,912
資産合計	24,680,857	24,789,865	△109,008

2020年3月期 連結貸借対照表

単位: 千円

	2020年3月期	2019年3月期	増減額
(負債の部)			
流動負債	10,640,213	9,139,457	1,500,756
支払手形及び買掛金	1,101,995	1,007,417	94,577
短期借入金	3,055,000	2,905,000	150,000
1年内返済予定の長期借入金	1,526,736	629,086	897,650
その他の流動負債	4,956,482	4,597,954	358,528
固定負債	2,708,533	4,352,798	△1,644,264
長期借入金	1,908,524	3,435,260	△1,526,736
その他の固定負債	800,009	917,538	△117,528
負債合計	13,348,746	13,492,255	△143,508

2020年3月期 連結貸借対照表

単位：千円

	2020年3月期	2019年3月期	増減額
(純資産の部)			
株主資本	11,172,132	10,837,106	335,026
資本金	3,373,552	3,373,552	—
資本剰余金	2,947,095	2,951,143	△4,047
利益剰余金	5,343,891	5,022,867	321,023
自己株式	△492,406	△510,457	18,050
その他の包括利益累計額	159,977	460,503	△300,526
その他有価証券評価差額金	151,843	317,216	△165,373
繰延ヘッジ損益	2,946	4,378	△1,432
為替換算調整勘定	1,443	20,380	△18,936
退職給付に係る調整累計額	3,744	118,528	△114,783
純資産合計	11,332,110	11,297,610	34,500
負債純資産合計	24,680,857	24,789,865	△109,008

2020年3月期 連結損益計算書



単位: 千円

	2020年3月期	2019年3月期	増減額
売上高	24,385,261	23,396,500	988,761
売上原価	16,409,196	15,775,255	633,940
売上総利益	7,976,065	7,621,245	354,820
販売費及び一般管理費	6,964,104	6,542,143	421,960
営業利益	1,011,961	1,079,101	△67,140
営業外収益	143,676	192,043	△48,366
営業外費用	94,929	100,974	△6,045
経常利益	1,060,708	1,170,170	△109,461
特別利益	124,144	201,673	△77,529
特別損失	252,424	37,847	214,577
税金等調整前当期純利益	932,428	1,333,996	△401,567
法人税等及び法人税等調整額	495,395	570,399	△75,003
親会社株主に帰属する当期純利益	437,032	763,596	△326,564

2020年3月期 連結株主資本等変動計算書

＜2019年3月21日から2020年3月20日まで＞

単位：千円

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当連結会計年度期首残高	3,373,552	2,951,143	5,022,867	△510,457	10,837,106
当連結会計年度変動額					
剰余金の配当			△116,009		△116,009
親会社株主に帰属する 当期純利益			437,032		437,032
自己株式の処分		△4,047		18,050	14,002
株主資本以外の項目の 当連結会計年度変動額(純額)					
当連結会計年度変動額合計	－	△4,047	321,023	18,050	335,026
当連結会計年度末残高	3,373,552	2,947,095	5,343,891	△492,406	11,172,132

2020年3月期 連結株主資本等変動計算書

単位: 千円

	その他の包括利益累計額					純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額 合計	
当連結会計年度期首残高	317,216	4,378	20,380	118,528	460,503	11,297,610
当連結会計年度変動額						
剰余金の配当						△116,009
親会社株主に帰属する 当期純利益						437,032
自己株式の処分						14,002
株主資本以外の項目の 当連結会計年度変動額(純額)	△165,373	△1,432	△18,936	△114,783	△300,526	△300,526
当連結会計年度変動額合計	△165,373	△1,432	△18,936	△114,783	△300,526	34,500
当連結会計年度末残高	151,843	2,946	1,443	3,744	159,977	11,332,110

2020年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：千円

	2020年3月期	2019年3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,354,932	1,115,577	239,355
投資活動によるキャッシュ・フロー	△567,552	△2,380,574	1,813,021
財務活動によるキャッシュ・フロー	△748,428	2,287,027	△3,035,455
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,198	△2,012	814
現金及び現金同等物の増加額 (△減少額)	37,753	1,020,018	△982,264
現金及び現金同等物の期首残高	1,374,418	354,399	1,020,018
現金及び現金同等物の期末残高	1,412,172	1,374,418	37,753

2020年3月期 貸借対照表

単位：千円

	2020年3月期	2019年3月期	増減額
(資産の部)			
流動資産	9,759,743	9,419,938	339,805
現金及び預金	1,188,972	1,159,974	28,998
受取手形及び売掛金	3,631,041	3,913,554	△282,513
たな卸資産	4,059,436	3,771,907	287,528
その他の流動資産	880,293	574,501	305,792
固定資産	12,722,989	12,845,418	△122,428
有形固定資産	4,779,072	4,848,931	△69,858
無形固定資産	818,639	493,166	325,473
投資その他の資産	7,125,276	7,503,320	△378,043
資産合計	22,482,732	22,265,356	217,376

2020年3月期 貸借対照表

単位: 千円

	2020年3月期	2019年3月期	増減額
(負債の部)			
流動負債	9,423,759	7,759,647	1,664,112
支払手形及び買掛金	1,072,995	1,065,014	7,980
短期借入金	2,465,000	2,230,000	235,000
1年内返済予定の長期借入金	1,503,720	606,070	897,650
その他の流動負債	4,382,044	3,858,562	523,481
固定負債	2,427,697	4,021,484	△1,593,786
長期借入金	1,881,710	3,385,430	△1,503,720
その他の固定負債	545,987	636,054	△90,066
負債合計	11,851,457	11,781,131	70,325

2020年3月期 貸借対照表

単位: 千円

	2020年3月期	2019年3月期	増減額
(純資産の部)			
株主資本	10,474,729	10,155,333	319,396
資本金	3,373,552	3,373,552	—
資本剰余金	2,947,095	2,951,143	△4,047
利益剰余金	4,646,487	4,341,094	305,393
自己株式	△492,406	△510,457	18,050
評価・換算差額等	156,545	328,891	△172,345
その他有価証券評価差額金	153,599	324,513	△170,913
繰延ヘッジ損益	2,946	4,378	△1,432
純資産合計	10,631,275	10,484,224	147,050
負債純資産合計	22,482,732	22,265,356	217,376

2020年3月期 損益計算書

単位：千円

	2020年3月期	2019年3月期	増減額
売上高	19,124,172	18,603,506	520,665
売上原価	12,858,792	12,451,568	407,224
売上総利益	6,265,379	6,151,938	113,441
販売費及び一般管理費	5,639,473	5,417,771	221,702
営業利益	625,905	734,166	△108,260
営業外収益	253,645	260,674	△7,028
営業外費用	78,549	83,933	△5,384
経常利益	801,002	910,907	△109,905
特別利益	117,151	14,699	102,451
特別損失	229,241	36,830	192,410
税引前当期純利益	688,912	888,777	△199,865
法人税等及び法人税等調整額	267,509	305,287	△37,778
当期純利益	421,402	583,489	△162,087

2020年3月期 株主資本等変動計算書

＜2019年3月21日から2020年3月20日まで＞

単位：千円

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,373,552	2,951,143	4,341,094	△510,457	10,155,333
当期変動額					
剰余金の配当			△116,009		△116,009
当期純利益			421,402		421,402
自己株式の処分		△4,047		18,050	14,002
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	－	△4,047	305,393	18,050	319,396
当期末残高	3,373,552	2,947,095	4,646,487	△492,406	10,474,729

2020年3月期 株主資本等変動計算書

単位：千円

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	324,513	4,378	328,891	10,484,224
当期変動額				
剰余金の配当				△116,009
当期純利益				421,402
自己株式の処分				14,002
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△170,913	△1,432	△172,345	△172,345
当期変動額合計	△170,913	△1,432	△172,345	147,050
当期末残高	153,599	2,946	156,545	10,631,275

セグメント別分析

■ セグメント区分の変更について

当連結会計年度より、報告セグメントの区分及び名称を変更しております。

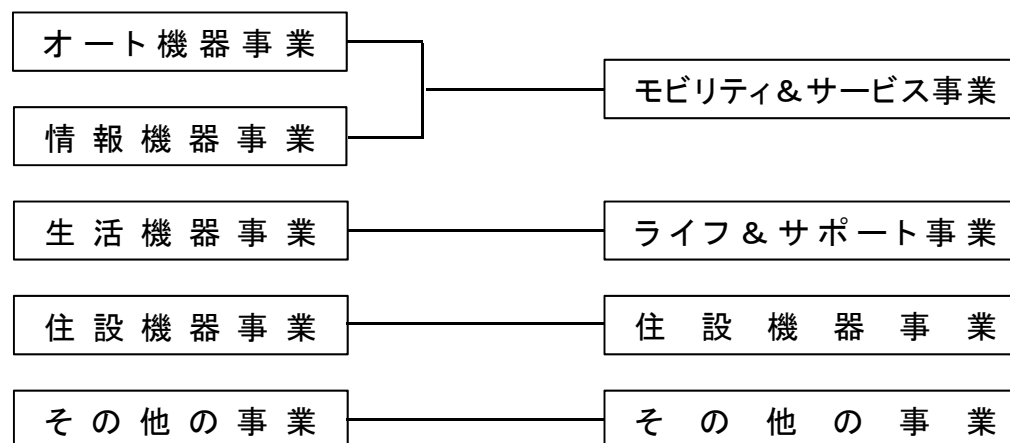
従来、報告セグメントとして開示しておりました「オート機器事業」と「情報機器事業」については、統合することによりコスト競争力、商品開発力及び提案力の強化を図り、モビリティ社会を支える事業とするため、セグメントの名称を「モビリティ&サービス事業」に変更しております。

また、「生活機器事業」については、調理家電から食品工場向けの食品加工機械まで事業拡張を図るため、名称を「ライフ&サポート事業」に変更しております。

これに伴い、前期については、前期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

【変更前セグメント】2019年3月期

【変更後セグメント】2020年3月期



セグメント別分析



■ モビリティ&サービス事業

主力の門型洗車機は、SS(サービス・ステーション)向けが油外収益向上への期待感から積極的な設備投資により堅調に推移したものの、カーディーラー向けは設備投資に一服感が見られ、やや伸び悩みました。オイル機器は、カーエアコンの新冷媒対応に伴う新製品発売効果もあり、エアコンガスクリーニング機が伸長しました。情報機器は主にLED表示装置を製造・販売しています。一般店舗向け小型表示機は、需要が振るわず前期実績を下回る結果となりました。特注のビジョンについては、大型フルカラー表示機の案件は受注が低迷しましたが、テーマパークなどに向けた小型表示機が好調に推移し、売上げを伸ばしました。また、SS向けについては、価格看板の一括受注などが奏功し大きく伸長しました。

この結果、売上高は157億5千9百万円(前期比2.6%増)となりました。



ドライブスルー門型洗車機



SS向け価格看板とフルカラー表示機

セグメント別分析



■ ライフ&サポート事業

農家向け商材は、主力製品の低温貯蔵庫が伸び悩み、前期の売上げを下回りました。一方、一般家庭向け商材は、もちつき機の需要が振るわず低調に推移したものの、新発売の電気圧力鍋及び無煙ロースターが好調で売上げに貢献しました。また、新たに事業拡大を図った攪拌機や食品加工機のビジネスも堅調に推移しました。

この結果、売上高は59億円(前期比6.3%増)となりました。

■ 住設機器事業

住設機器としては、主に木・アルミ複合断熱建具、消音装置、鋼製防火扉等を製造・販売しています。木・アルミ複合断熱建具については、地元木材の活用が定着し、さらに窓の断熱化が強化されたことを受け、定番商品として定着してきました。消音装置については建築計画段階から騒音対策を取り入れる需要が活発で、鋼製防火扉についても都市開発ビルでの需要が多く堅調に推移しました。

この結果、売上高は25億5千6百万円(前期比10.2%増)となりました。



電気圧力鍋と無煙ロースター



アルタスウッドスクリーンの施工例

セグメント別分析

■ その他の事業

保険代理業、不動産管理・賃貸業及び長野リンデンプラザホテルの運営に係るホテル業が主体となります。ホテル業については、長野市内での競合が激化し厳しい状況が続いております。

この結果、売上高は1億6千8百万円(前期比0.3%増)となりました。



長野リンデンプラザホテル

2021年3月期 業績・配当予想

次期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大による影響が、現時点では業績に与える不確定な要素が多く、業績予想を合理的に算定することが困難であるため、未定としております。また、配当につきましても、現時点では未定とさせていただきます。

今後、開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

参考資料

当社の経営方針

当社グループは、2018年7月に迎えた創立70周年を機に、第二創業としての強い攻めの気持ちをもって、中期経営計画策定、M&A、生産設備やIT基盤への投資、労働環境の改善など、成長ステージに向けての施策を講じてきました。そして、この施策の一環として、当社グループの理念たるビジョン、ミッション等を次のように定め共有いたしました。

- ・ ビジョン 「今までにない、いろどり豊かなシーンを広げる。」
- ・ ミッション 「これが欲しかった！をアイデアで次々に実現する。」
- ・ スローガン 「その手があった！の一手先。」

この理念のもと、これまでのモノづくりの実績を踏まえた上で、持てるネットワークと資源の全体最適を図りながら、新たな成長フェーズへと実績を積み上げてまいります。

対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、国内・世界経済ともに低迷するとの予想が増加しております。新型コロナウイルス感染症に係る影響や世界経済の不確実性など、先行き不透明な状況にあり、当社グループ関連業界におきましても厳しい経営環境が続くものと予想されます。

時々刻々と変化する経営環境にあって、当社グループは変革の時を迎えた今、更なる成長ステージへ向けて以下の課題に取り組んでまいります。

① 顧客価値の追求

モノづくりとサービスを通じた顧客価値を追求し、当社グループのスローガン「その手があった！の一手先。」の姿を具現化する。

② 健康経営の推進

健康は個々人の幸せの礎であり、従業員とその家族の健康は会社が成長し社会的責務を果たすための源である。健康を経営の最重要課題の一つと捉え、従業員とその家族の心身の健康を保持・増進する健康経営に取り組む。

③ “美・食・住”

社会的な課題を“美・食・住”の視点から探求し、その解決に向け、当社グループをあげて新しい事業、商品及びサービスをデザインする。

対処すべき課題

④ ブランドの強化

社外向けコーポレートブランディング、当社グループ内のインナーブランディング及び採用ブランディングを通じて、魅力あるモノづくり集団としての当社グループの一層の認知度向上を図る。

⑤ 意識行動の変革

創立70周年を機に刷新した当社グループの理念を全社員が共有し、意識行動の変革を通じて、研究開発型の完成品メーカーとして社会に貢献する企業グループの進化を図る。

⑥ 経営インフラの強化

当社グループを支える人材、財務、IT、生産ラインといった経営インフラを、グループ全体の最適化を踏まえながら整備し強化する。

研究開発活動

市場ニーズが多様化する中、「良いモノをつくれば売れる」といった単純な時代が終焉を迎えて久しいときが経っております。「お客様が本当に困っていることはなにか」、「困っていても現状に甘んじていることはなにか」、さらに言えば「お客様自身でさえ気がついていないような『こんなものがほしかった！』といったものはないのか」、研究開発においてもそういったマーケティング思考が極めて重要になっております。

当社は「その手があった！の一手先。」といった新コーポレートスローガンを掲げ、「お客様に寄り添うメーカー」から「お客様にとって、なくてはならないメーカー」を目指して、あらゆる研究開発活動を進めてまいります。

研究開発活動

■ モビリティ&サービス事業

門型洗車機では、ドライブスルー式門型洗車機の新モデルとして車形センサーの進化により洗浄性と安全性を向上した「レグロスG」「レグロス」及び「アステージ」を開発しました。「レグロスG」は、トップパネルに高輝度LEDディスプレイを搭載し、表現力豊かな動画で、安全で楽しい洗車アピールを可能としました。また、ディーラー、整備工場及びSS（サービス・ステーション）向けの新モデルとして、横幅4m奥行8mの狭小スペースに設置可能な「アンプル コンパクト」「サフィール コンパクト」を開発しました。

大型車両用洗車機では、車種判別センサーを搭載し、車種と大きさボタンの入力操作を不要とした新モデル「アバンザード」を開発し、新オプションとしてスポンジブラシとブローユニットの搭載を可能としました。

自動車整備機器では、エアコンガスクリーニング充填機の新モデルとして、HFC-134a・HF0-1234yfの2ガス2油種兼用型機を開発しました。また、CVT・ATチェンジャーでは、売れ筋の軽自動車とハイブリット車の交換需要に対応するとともに操作性能を高めた新モデルを開発しました。

灯油配送ローリーでは、燃料油メーター関係法令改正対応（JIS化）機種を開発しました。

民需向け情報機器では、SS向けに、フルカラービジョンでの油種価格表示機能を搭載した大型表示機と路上価格看板を開発しました。

また、工事用表示機分野では、開発したシースルー表示機が国土交通省の新技术情報提供システム（NETIS）に登録されました。

公官需向け情報機器では、過去に納入した高速道路SA向け駐車場案内システムの増設工事に伴う追加機器を開発しました。

研究開発活動

■ ライフ&サポート事業

農資商材では、加温機能付低温貯蔵庫シリーズに32袋タイプのラインアップを加え、更に断熱性能アップ、ユニットのダブルコーティングも採用して機能向上を図りました。

家電商材では、おもちの食べ方の新提案として、もち米からだけでなく切り餅からもいろいろな調理にアレンジできる全自動小型もちつき機を開発しました。また、販売が好調な電気圧力鍋については、シリーズ化を進めターゲット層の拡大を図っております。調理家電の品揃え強化のため、おひとり様小型調理家電シリーズとして、ミニ炊飯器、ミニホットプレート、グリルパン、ホットサンドメーカーを開発しました。

収納商材では、市場からの要望が多い板金製スリム米びつを開発しました。また屋外用の多目的収納庫として、住宅の外壁に合う塗装タイプのマルチボックスを開発しました。

業務用商材では、騒音下での工場見学説明や発電所作業などに役立つ音声クリアガイドシステムの感度向上と双方向会話を可能にしたマルチレピーターを開発しました。

研究開発活動

住設機器事業

アルタスウッドウィンドウシリーズでは、枠はアルミ断熱枠、障子を純木製として、木を全面に主張し断熱性を高めたNWW(ニューストウッドウィンドウ)を商品ラインアップに加えており、更なる拡充を進めております。

新製品情報

■ モビリティ&サービス事業

【省スペース門型洗車機「サフィールコンパクト」】

奥行8m×幅4mに設置できる省スペース型門型洗車機を開発しました。車両停止位置を洗車機内の奥側に調整することでレール長を短縮し、業界最小クラスの設置面積を実現しました。

ブラシ圧を自動補正する機構を搭載して、最適洗浄を実現しています。



新製品情報

【新冷媒ガス対応型「エアコンフレッシュャー AF-5000Z」】

現行冷媒ガスHFC-134aから次世代冷媒ガスHFO-1234yfへと切替えが進む中で、ガスごとに管路を完全分離した兼用型のエアコンガス再生機を発売しました。2つのガスクリーニング工程で、オイル成分や不純物を除去し純度99.99%のガスに再生します。

高純度に再生されたガスを車に充填し、新車時の冷却性能を復活させます。



新製品情報

【ストアサインQV-168C】

フルカラー表示機に価格看板の機能を搭載した「ストアサインQV-168C」を発売しました。油種価格をタブレットで簡易的に切り替えることができ、油種価格と油外商品等のコンテンツをスケジューリング表示することが可能になります。

決済手段に応じた油種価格もわかりやすく表示することができ、油外商品の広告宣伝にも貢献します。

また、幅1,280mm×高1,920mmの大画面と高輝度LEDにより、アイキャッチ効果を高める製品となっています。



新製品情報

■ ライフ&サポート事業

【全自動小型もちつき機「もちブレンダー」】

全自動でもち米からおもちが作れるスリムでコンパクトなもちつき機「もちブレンダー」を発売しました。混ぜながら加熱する炊き混ぜ方式のため、もち米をひたす必要がなく、約60分でつきたてのおもちが完成します。

また、切りもちをつきたてのおもちに加工することもでき、切りもちと冷蔵庫にある食材を使って、和洋中、スープ、スイーツなど多彩なおもち料理を手軽に作ることができる製品です。



株主優待制度のご案内

■ 株主優待制度の内容

当社のグループ会社で運営する長野リンデンプラザホテル(長野市南千歳町)の宿泊優待券を贈呈いたします。

■ 発行基準

宿泊優待券は、毎年3月20日現在、所有株式数1,000株以上の株主様に対し、次のとおり発行いたします。

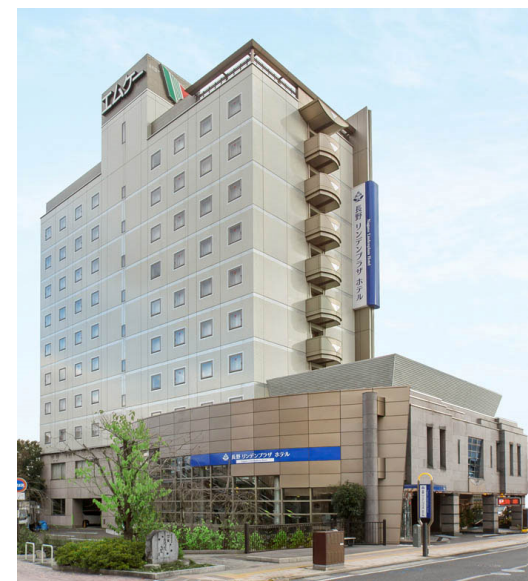
ご所有株数	ご優待券
1,000株 ～ 1,999株	2 枚
2,000株 ～ 3,999株	3 枚
4,000株 ～ 9,999株	4 枚
10,000株以上	6 枚

■ 発行日

定時株主総会後、決議通知に同封いたします。

■ 有効期限

発行年の翌年6月30日



長野リンデンプラザホテル



本資料に関するお問い合わせ

エムケー精工株式会社

管理本部

TEL : 026-272-0601

E-mail : soumu@mkseiko.co.jp